

授業科目等の概要

(専門課程看護学科) ※令和4年度入学生から適応																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			論理的思考	日常生活においてなぜ論理的な思考が必要か、論理的思考力とはどのようなものか学ぶ。その上で、身近な話題を取り上げ、情報・資料を収集・分析し、論理的な主張を構築し、文章を記述・発表する。相互に意見を伝え合い、論理的な議論を通して相互理解が深まる言語活動を展開する。	1 年前期	30	1	○			○			○		
2	○			生活行動科学	生活の行動や生命の営みを物理と科学の視点から理解し、看護の方法や医療器具の原理を学んでいく。	1 年前期	30	1	○			○				○	
3	○			教育学	人間の成長に関わる教育の機能について理解を深め、看護における教育的側面を理解する。学ぶことの必要性・教育方法・指導方法・評価方法を学ぶ。	2 年前期	15	1	○			○				○	
4	○			情報リテラシー	情報科学の基礎および看護に求められる情報リテラシーをはじめコンピューターを用いた情報処理技術やよく用いられる統計手法の考え方や理論を知り、実際に統計ソフトを使用しながらグラフや表作成の基本を学び、科学的研究方法を基礎を培う。	1 年前期	30	1	○		△	○				○	
5	○			英会話	日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語を理解し、看護場面で活用できる英会話を体験的に学ぶ。良い人間関係を築くための会話のコツを学ぶ。	2 年前期	30	1	△		○	○				○	
6	○			医療英語	カルテや英語文献を読める力を養う。英語文献にふれることで、国際化・情報化のきっかけとする。	3 年前期	15	1	○		△	○				○	
7	○			キャリアデザイン	自らの人生と看護のキャリア形成について、自分の将来をデザインするための基礎的能力を養う。看護を目指すものとしての自分自身に向き合い、働くことに対する考え方や希望を明らかにできるように働く先輩の声を聴きながら、自分の将来像を描く。同時にキャリアデザインの実現に向けて身につけたい能力を学ぶ。	1 年後期	15	1	○			○				○	
8	○			生物学	生物を細胞レベルで理解するとともに、生物の不思議で巧みに営む生物のシステムを感じ取り、不思議や疑問に思ったことを大切に、生物とは何か、生きるとは何かを考える。	1 年前期	30	1	○			○				○	
9	○			心理学	人の体験と行動の発生と発達の過程、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識を学ぶ。	2 年前期	30	1	○			○				○	

10	○		人間関係論	基本的な対人関係の理論を学び、体験学習を通して自分と他者を理解するきっかけとなる自己認識力と対人コミュニケーション力の向上を目指す。	1 年前期	30	1	○		△	○			○	
11	○		生命倫理学	臨床現場で倫理的課題に対応する基礎的な生命倫理の考え方を身につける。グループワークを通して生命に関わる様々な倫理的課題について自己の考えを表現し、自分と異なる考え方に耳を傾け、生命の尊厳・死生観・人生観を深める。	2 年前期	30	1	○			○				○
12	○		社会学	患者や医療者・医療がおかれた社会的背景を広い見地から理解するための社会学を学ぶ。さまざまな事象を社会的視点で捉え、疑問を発見し、問いを立て、能動的に分析する力を身につける。	2 年前期	30	1	○			○				○
13	○		健康とスポーツ	スポーツを通して、協調性や体力の向上をはかり、心身の健康の保持・増進を保つ。	1 年前期	30	1			○	○				○
14	○		静岡地域学	地域創造や地域共生を行うために必要な地域の見方、静岡の暮らしや生活を学び、自分もまちづくりの一員となる視点を持ち、自分の役割や関わり方を学ぶ。	1 年前期	15	1	○			○				○
15	○		形態機能学Ⅰ	看護の視点から人体を系統立てて理解する。 導入として形態機能学を学ぶ意味を示し、からだのつくりと営みを日常生活行動に関連づけて考え、看護の方法とも関連づけて学ぶ。 中心課題：動く・眠る、食べる・トイレに行く。	1 年前期	30	1	○			○			○	○
16	○		形態機能学Ⅱ	看護の視点から人体を系統立てて理解する。 からだのつくりと営みを日常生活行動に関連づけて考え、看護の方法とも関連づけて学ぶ。 中心課題：恒常性維持のための神経調節・液性調節	1 年前期	30	1	○			○			○	○
17	○		形態機能学Ⅲ	看護の視点から人体を系統立てて理解する。 からだのつくりと営みを日常生活行動に関連づけて考え、看護の方法とも関連づけて学ぶ。 中心課題：生命維持 体温の恒常性・流通の媒体である血液・全身をめぐる・息をする。	1 年後期	30	1	○			○			○	○
18	○		形態機能学Ⅳ	看護の視点から人体を系統立てて理解する。 からだのつくりと営みを日常生活行動に関連づけて考え、看護の方法とも関連づけて学ぶ。 中心課題：お風呂に入る、性を表現する。	1 年後期	15	1	○			○			○	
19	○		看護臨床判断の基礎	形態機能学で学んだ知識を活用して、からだの中でおきている状態とその根拠を表現し、看護師らしく思考・判断する力を養う。	1 年後期	30	1	○			○			○	
20	○		生化学	健康なからだだがどのように機能し、維持され、調節されているか、病気がいかに成り立っているか、生化学の視点から学ぶ。	1 年前期	30	1	○			○				○

21	○		栄養学	生体が発育・成長していく健全な生命活動を営むために体外から取り入れる栄養素と体内での役割を学ぶ。各病態やライフステージの特徴を理解し、それに基づいた適切な栄養管理の方法を学ぶ。	1年後期	30	1	○			○			○
22	○		微生物学	病原微生物の分類・特徴、病原微生物がどのような感染症を引き起こすか、感染経路に対応するための方法および感染防御免疫を学習し、看護実践における感染予防の根拠を学ぶ。	1年前期	30	1	○			○			○
23	○		薬理学	化学物質である薬物によってからだの中でどのような作用を示すか、薬物の吸収・分布・代謝・排泄といった安全に薬物療法の看護を行うために必要な薬に対する基礎知識を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○			○
24	○		臨床薬理学	病態生理学と薬理学の知識を活用しながら薬の役割を学び、臨床で実際に薬物療法を受けている事例を通して薬物療法の実際を学ぶ。安全に薬物療法を行うために、薬剤師と看護師の連携について考える。	2年後期	30	1	○			○			○
25	○		臨床医学特論	健康障害に対する主要な治療法を理解し、治療法に合わせた看護に活かしていく基礎を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○			○
26	○		病理学	形態機能学の知識を活用し、正常な状態を比較しながら病的な状態を理解する。検査の目的・方法の理解を通して正確な結果を得るための看護や測定値の意味を考えることで身体内部に起こっている状態を判断する看護に活用していく基礎を学ぶ。	1年後期	30	1	○			○			○
27	○		病態生理学Ⅰ	看護実践の基盤となる脳神経機能・運動機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、病態、治療法について学ぶ。	1年後期	30	1	○			○			○
28	○		病態生理学Ⅱ	看護実践の基盤となる消化吸収機能・栄養代謝機能・内部環境調節機能・排泄機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、病態、治療法について学ぶ。	1年前期	30	1	○			○			○
29	○		病態生理学Ⅲ	看護実践の基盤となる循環機能・呼吸機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、病態、治療法について理解する。	2年前期	30	1	○			○			○
30	○		病態生理学Ⅳ	看護実践の基盤となる身体防御機能・感覚機能・性生殖機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、病態、治療法について理解する。	2年前期	30	1	○			○			○
31	○		総合医療論	医療の実像から医療や看護の問題を深く考えていくために、医学のあゆみや健康と疾病、医療体制について理解する。	1年前期	15	1	○			○			○
32	○		公衆衛生	公衆衛生の基本理念とそれに基づく調査や活動を理解し、静岡市の特徴と生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の実際を学ぶ。	3年前期	15	1	○			○			○

33	○		社会福祉論Ⅰ	人間の健康に関わり、生活を支援するために必要な社会保障や社会福祉について変遷とその背景からその制度に関する知識を学ぶ。	2年後期	15	1	○			○			○
34	○		社会福祉論Ⅱ	社会福祉の分野とサービスを理解する。患者、家族、医師、看護師の中でMSWの存在意義や医療制度の改革における役割の変化を理解する。	3年前期	15	1	○			○			○
35	○		暮らしのしくみ	地域住民のひとりとして日々の暮らしを支える制度・資源・環境について知り、地域の困りごとやサポートを具体的に学び、包括的に支えるしくみを考える。	1年後期	30	1	○			○	△	○	○
36	○		医療関係法律論	看護職に携わるものとして必要な法規の基礎学ぶ。医療を提供する枠組みの全体像およびそれぞれのしくみと関連を理解する。	2年後期	15	1	○			○			○
37	○		看護学概論	看護の目的・対象・方法について理解し、看護専門職としての役割を理解する。授業を通して今私が考える看護とは何かを表現する。	1年前期	30	1	○			○		○	
38	○		看護の方法Ⅰ	看護の方法として最初に開講するため、看護技術を学ぶ学習方法を知り、看護における観察とその意義、看護するうえで必要な技術として、コミュニケーション、感染予防を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△	△	○		○	○
39	○		看護の方法Ⅱ	看護の基本的な共通技術となる脈拍・呼吸・体温の観察方法・記録・看護過程について学ぶ。関連する形態機能学やフィジカルアセスメントとつなげて考え、看護の専門的思考の基本を学ぶ。	1年後期	30	1	○	△	△	○		○	
40	○		看護の方法Ⅲ	人間の生命維持に必要な栄養・食事、排泄を理解し、対象にとっての食事・排泄の意義を理解し、食事・排泄のニードが満たされるための食事・排泄援助の方法を考え実施を通して援助の必要性和技術を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△	△	○		○	
41	○		看護の方法Ⅳ	環境・動く眠るについて、健康と人間の生活の2つの観点から日常生活の行動を意識しながら、環境調整と運動と休息のバランスを維持する意義を理解し、環境調整と動く眠るを支える援助の方法を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△	△	○		○	
42	○		看護の方法Ⅴ	日常生活で行っている清潔行動を意識し、疑似体験や患者役割を通して自分で清潔行動がとれない状況の気持ちや他者から援助を受ける思いを考える。清潔を保持し衣生活を整えるための意義、必要な知識・技術を学ぶ。	1年後期	30	1	○	△	△	○		○	
43	○		看護の方法Ⅵ	形態機能学の知識を活かしながら、安全・安楽に治療・検査が受けられるよう与薬援助時や診察検査時の看護の役割・技術を学ぶ。	1年後期	30	1	○	△	△	○		○	
44	○		看護の方法Ⅶ	ヘルスアセスメントについて看護における重要性、フィジカルアセスメントの関係性を理解し、健康の査定を行うための具体的な方法を学ぶ。	1年後期	15	1	○	△	△	○		○	
45	○		看護過程演習	事例を用いて看護過程を展開し、理解を深めるためにグループワークも活用しながら、より質の高い援助を実施するための看護の専門的思考について学ぶ。	1年後期	30	1	△	○	△	○		○	

46	○		看護研究	看護職者として必要な研究力を知り、よりよい看護を追求するための方法を学ぶ。事例検討を通してこれからの自分の仕事への価値を見出す。	3年後期	30	2	○			○		○		
47	○		看護管理	看護活動が円滑に行われるために必要な看護管理、看護職者としてのリーダーシップを学ぶ。今までの学習を活かして社会に求められる看護職の役割と責務を考える。	3年前期	15	1	○			○			○	
48	○		地域・在宅看護論概論	暮らしの視点を大切に、地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートを学ぶ。	1年前期	15	1	○			○		○	○	
49	○		地域・在宅看護論演習	人々の暮らしの場である地域を生活者と看護の視点から学ぶ。健康に向けて人々がどのような暮らしを営み考えているかを個人・グループで実習体験も活用しながら考えを深める。	1年後期	45	2	△	○		○	△	○		
50	○		地域・在宅看護の方法Ⅰ	地域・在宅看護の対象である療養者と家族の役割や関係性を理解を深める。	2年前期	30	1	○	△		○	△	○	○	
51	○		地域・在宅看護の方法Ⅱ	地域・在宅看護での医療管理・専門職との連携・関わりの実際について学び、様々な職種や在宅専用器具に触れ、地域・在宅での看護について理解を深める。そこから暮らしの質を支えることと医療的看護について学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○		○	○	
52	○		地域・在宅看護の方法Ⅲ	今までの学習を活かし、訪問看護ステーションの設立と領域別事例の支援マップの作成と意見交換を通して、暮らしや生活者の視点を持ち、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を理解する。	3年後期	30	1	○	△		○		○	○	
53	○		成人看護学概論	自分や周囲の成人期にある方の実状と統計から成人期の特徴と健康問題を知り、保健・医療・福祉政策を調べ、成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。	1年後期	15	1	○			○		○		
54	○		成人看護の方法Ⅰ	患者が慢性の病と共に、その人らしく生きられるための看護を講義や事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年前期	30	1	○	△		○		○	○	
55	○		成人看護の方法Ⅱ	心身に大きな影響を受ける手術療法に臨む患者が、周手術期を良好に経過し、その後の生活の再調整を図るための看護を講義と事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年前期	30	1	○	△		○		○	○	
56	○		成人看護の方法Ⅲ	急激な生命の危機状態にある患者の、生命と生活の質を維持する看護を講義と事例を用いた共同学習を通して学び、緊急時に自己の取る行動を考える。	2年前期	30	1	○	△	△	○		○	○	
57	○		成人看護の方法Ⅳ	成人期の役割を果たしながらがん向き合いその人らしく生きられる看護を、講義や事例を用いた共同学習を通して学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○		○	○	

58	○		成人看護の方法Ⅴ	事例に関連させて活用できるよう、臨床で行われる専門性が高く侵襲を伴う看護技術を体験的に学ぶ。	2 年 前 期	30	1	△	○	△	○		○				
59	○		老年看護学概論	いずれは自分も往く道を歩む老年期にある対象の特徴を高齢者との関わりや疑似体験を通し、社会の変遷を高齢者への政策や時事に関心を注いで理解し、福祉職を目指す学生との関わりを通して老年看護の機能と役割を学ぶ。	1 年 後 期	15	1	○	△		○	△	○				
60	○		老年看護の方法Ⅰ	1年生で学んだ老年期の特徴と日常生活援助の学習を活かし、老年期にある対象の日常生活力とそれに及ぼす影響を理解し、健康生活への援助について具体的に学ぶ。	2 年 前 期	30	1	○	△	△	○		○	○			
61	○		老年看護の方法Ⅱ	自己の高齢者観や死生観を意識し倫理的判断に基づく対応について考えながら、人生の最終段階にある高齢者の看護をするための方法を学ぶ。	2 年 後 期	15	1	○	△	△	○		○	○			
62	○		老年看護の方法Ⅲ	高齢者の身体的特徴や治療に関する学習を活用し、治療を受けながら生活していく高齢者を理解し、看護実践をするための方法を事例を通して学ぶ。	2 年 後 期	30	1	○	△	△	○		○	○			
63	○		小児看護学概論	地域に暮らす子どもとその家族を取り巻く環境を理解する。成長発達が著しい子どもの特徴と社会の動きによる暮らしへの影響、子どもの権利を尊重するための姿勢を学び、看護の役割を考える。	2 年 前 期	15	1	○	△		○		○				
64	○		小児看護の方法Ⅰ	小児看護学概論で学んだ成長発達の特徴の理解を深め、こどもの理解と生活援助、家族の援助を考え、体験しながら学ぶ。	2 年 前 期	30	1	○	△	△	○		○				
65	○		小児看護の方法Ⅱ	小児に特有な疾患及び治療の実際を理解し、発達段階や家族がおかれている状況から、小児が障がいを抱えることが児や家族に及ぼす影響を考えながら看護の具体を学ぶ。	2 年 後 期	30	1	○	△		○		○	○			
66	○		小児看護の方法Ⅲ	既習の知識を活用しながら、あらゆる状況や場における子どもと家族の健康な暮らしを理解し、社会の中で暮らす児の健やかな成長発達の促進に向けた必要な看護を実践的に学ぶ。	2 年 後 期	30	1	○	△	△	○		○	○			
67	○		母性看護学概論	多様化する母性の対象、社会情勢により変化する女性の生涯を理解しながら、母性とは何かを考える。地域で生活する母性の対象を守る施策や法律を学ぶ。命について他者との相違に気づき、性と生殖医療における倫理を考える。	2 年 前 期	15	1	○			○		○				
68	○		母性看護の方法Ⅰ	ウィメンズヘルスを支える看護を理解する。母性看護学概論の学習を活用しながら、事例を通して女性の一生をライフサイクルを切り口に、ライフステージ各期における健康と意思決定を支える看護を学ぶ。	2 年 前 期	30	1	○			○		○				

69	○		母性看護の方法Ⅱ	母性看護の方法Ⅰで学んだ成熟期にある女性のマタニティサイクル期に着目する。妊娠・分娩・産褥各期の女性と児の生理的変化の基礎的知識を学び、その知識を活かして各期の視点とアセスメント、健康を支える看護、妊産褥婦と児への看護技術を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△	△	○		○	○		
70	○		母性看護の方法Ⅲ	母性看護の方法Ⅱで学んだ産み育てに逸脱した女性と胎児・新生児に着目する。妊娠・分娩・産褥各期に起こりやすい異常と治の基礎的知識を学び、その知識を活かして各期の視点とアセスメント、障がいのある人々の特徴や生活にお予防影響をふまえた看護を学ぶ。	2年後期	30	1	○	△		○		○	○		
71	○		精神看護学概論	精神看護学の基盤となるところを、健康、精神保健活動、ところを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を視点に理解し、精神看護の役割を学ぶ。	1年前期	30	1	○	△		○		○	○		
72	○		精神看護の方法Ⅰ	社会の中で生き生きと生活していく支援を考えるために、精神障害の病態・治療の知識を学ぶ。	2年前期	15	1	○			○			○		
73	○		精神看護の方法Ⅱ	病院の精神科医療から地域のケアへと向かう社会生活の場における精神保健活動の実際、地域生活におけるところの危機を支える制度と考え方を知り、回復に向けた看護、感情労働である看護職のメンタルヘルスを学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○			
74	○		精神看護の方法Ⅲ	ところの健康障害をもつ人の精神科における入院治療の意味を理解し、受診から入院、地域移行に至るまで患者や家族に必要な支援を学ぶ。	2年後期	15	1	○			○		○			
75	○		医療安全	医療・看護の安全を保つことについて、事故防止、感染防止の視点から根拠法や病院での現状と取り組みを知り、対象の安全を守る看護の知識と技術を学ぶ。	2年前期	15	1	○	△	△	○		○	○		
76	○		災害看護	災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関連しながら生命と生活に影響を及ぼしている認識をもち、日本や世界にも視野を広げ、災害時における看護活動について理解する。	3年後期	15	1	○	△		○		○	○		
77	○		国際情報論	国際社会に目を向け、多様な価値観・異文化の理解を講義やグループワーク、他国での看護活動の実際から深め、国際社会の情勢から看護に期待される役割を考える。	3年前期	30	1	○	△		○		○	○		
78	○		看護技術の統合	複数患者の事例をアセスメントし、ケアの優先順位を判断し、根拠をもってケア計画を立案し、状況の変化に合わせてケアを変更する。模擬患者に既習の知識と技術を統合して状況に応じた看護をその場で実践し、振り返りを通してよりよい看護を見出す。	3年後期	30	1	△	○	△	○		○			
79	○		基礎看護学実習Ⅰ	入院している看護の対象者との関わりを通して、自己の傾向を知り、看護におけるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。	1年前期	45	1				○	△	○	○	○	○

80	○		基礎看護学 実習Ⅱ	入院している対象に関わり、その対象の理解に必要な情報を理解し、看護的な気づきから対象理解を深め、対象の望ましい姿に近づくための援助を考え、日々の実践との関連を見出す。	2 年前期	90	2			○	△	○	○	○	○
81	○		基礎看護学 実習Ⅲ	入院している対象と関わり、自己の看護実践を省察し、他者からの意見をふまえ、よりよい看護を追求し、看護者としての自己を高める。	2 年後期	90	2			○	△	○	○	○	○
82	○		地域・在宅 看護論実習Ⅰ	地域・在宅看護活動を通して暮らしと暮らしが健康に与える影響を理解し、対象が活用・利用している社会制度やサポートを知る。	1 年後期	90	2			○		○	○	○	○
83	○		地域・在宅 看護論実習Ⅱ	地域・在宅看護活動を通して、地域に暮らす医療・看護を必要とする人々に対する継続看護・多職種連携、予防的視点の看護などを実践から学ぶ。	3 年前後期	90	3			○	△	○	○	○	○
84	○		成人看護学 実習	急性な経過を辿っている対象と関わり、急性期にある対象への看護を考え、急性の経過に合わせた看護を実践する。	3 年前後期	90	3			○		○	○	○	○
85	○		老年看護学 実習Ⅰ	入院している高齢者と関わり、その高齢者の特性を生活と関連づけて包括的に理解し、地域で暮らす対象がのぞむ姿に近づける生活援助を実施しながら、対象を取り巻く人々との連携から、自己の高齢者観を深める。	2 年前後期	90	2			○		○	○	○	○
86	○		老年看護学 実習Ⅱ	複数の高齢者に学生チームでも関わり、見えたその人らしさを援助に活かし、継続する看護実践のための看護チームでの協働を通して、老年看護の役割を見出す。	3 年前後期	90	3			○		○	○	○	○
87	○		小児看護学 実習	子どもや子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育など支援する人々との関わりを通して、社会の中でクラス子どもの健やかな成長発達促進に向け、児の権利を尊重し、児と家族に対する看護の役割を学ぶ。	3 年前後期	90	3			○		○	○	○	○
88	○		母性看護学 実習	病院・医院・助産院を利用している母性看護の対象関わり、対象を理解し、対象の生理的変化もふまえて健康促進に向けた看護の実践を通して、女性が地域で安心して暮らしていくための母性看護の役割を学ぶ。	3 年前後期	90	3			○		○	○	○	○
89	○		精神看護学 実習	さまざまな暮らしの中でこころを病む人とその支援者との関わり、その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、その人のねがいや夢の実現のために必要な支援を考え、精神看護を深める。	3 年前期	90	3			○	△	○	○	○	○
90	○		統合実習	既習学習を総動員し、臨床判断思考を活用しながら複数患者に看護実践、夜間や看護管理や多職種の活動への参観を通して、チーム医療を担う看護専門職の役割を理解する。	3 年後期	90	3			○		○	○	○	○
合計				90科目	単位時間（110単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【卒業の認定】学則第24条の規定により、成績評定の結果などを勘案した上、運営委員会の議を経て校長がこれを行う。しかし、学則「別表第2 1（看護学科教育課程）」の必修科目に掲げる科目の学科試験に合格しなかった者及び欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者は、卒業することができないとしてい		1 学年の学期区分	前後期

る。

【履修方法】学則「別表第2-1（看護学科教育課程）」に定められた授業科目を履修する。当該科目の受験資格は、欠席時間数が各授業科目のそれぞれの時間数の3分の1を超える者には与えられない。各科目の単位認定は、講義については、学科試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。また、臨地実習における実習評価は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

1学期の授業期間

42週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。